

やすらぎ

日本聖公会 九州教区 福岡聖パウロ教会
〒810-0045 福岡市中央区草香江 2-9-22
TEL 092-751-0097 FAX 092-751-9916
発行人 司祭 バルナバ 牛島幹夫

255号

2021.2.21 発行

YASURAGI



大齋節に寄せて

聖職候補生 島 優子

わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、

忍耐は練達を、練達は希望を生むということを

(ローマの信徒への手紙 5:3-4)

私たちのカレンダーが元旦で始まり大晦日で終わるように、キリスト教の暦も降臨節に始まり、降誕節、顕現節、大齋節、復活節、そして聖霊降臨後の期節と、主イエスの生涯を辿りながら1年かけて循環していきます。とりわけ大齋節（今年は2/17～4/3）は、信仰者にとって特別な意識をもって過ごす期間となっています。祭色は紫となり、同じ紫でも救い主のご降誕を「待望」する降臨節とは異なり、「節制」「慎み深さ」「悔い改め」といった意味を色濃く表します。イエス様が十字架へ向けて歩いた道に自分自身を重ねていく厳しい覚悟を求められているように感じます。

大齋節の由来である、イエス様の荒野での断食と苦難の40日の記述が、大齋節第1主日に読まれます(マタイ 4:1 以下参照)。イエス様がサタンの数々の試みを受けられたように、私たちも信仰を試され、訓練される時として過ごします。皆様の中にも断食したり食事を質素にしたり、あるいは娯楽の自粛など、それぞれに励んでいる方もあるでしょう。

私の感覚ではこの1年間、世の中はずっと大齋節の中にあっただような気がしています。息苦しいマスクを着け、人に会うことを我慢し、外出と移動を自粛し、孤独に耐え、生活苦による節制を強いられ、何をすることも感染対策・・・全ての人に影響を受けています。信仰生活の中心である教会の礼拝すら休止を余儀なくされた期間もあり、九州教区では復活日もクリスマスも集えなかった教会が複数ありました。これも神様のご計画？神様がお与えになった試練？と幾度も考えさせられました。

しかし見方を変えると、日々の祈りに力がこもり、会えない人のことを心に掛け、家庭において聖書に触れる時間が増えた方も多いでしょう。苦肉の策として始めた礼拝中継や説教配信が、新たな宣教手段として広がっています。苦境の中で、心を砕き知恵を絞りながら、必死に信仰生活を守ろうとしている私たちの姿を、神様はどのようにご覧になっているのでしょうか。

冒頭の聖句は大齋節にふさわしいと私が感じ、実際に困難の中で幾度となく助けられた御言葉です。置かれた状況を冷静に受けとめ、可能な限り最善のことをなして後は主に委ねるという姿勢を貫いてきました。今は礼拝出席を控えている兄弟姉妹たちと、何の心配もなく再び共に集い、食事をし、賑やかに語らう日はさぞ感動的だろうと、希望を持ってその時を想像しています。

最後に、私は3月31日をもって当教会での務めを終えますことを、この紙面をお借りしてお知らせいたします。神学校を卒業して最初の牧会現場、またコロナ禍という特殊な状況の中で、瞬く間の1年間でした。礼拝においても教会活動においても様々な制限がありましたが、それでも多くの実りある体験と心温まる交流が与えられ、神様と牛島司祭と皆様に大変感謝しております。まだまだ新参者の教役者ですが、主の御用のために用いられるよう、努力を続けてまいります。4月1日より戸畑聖アンデレ教会と厳原聖ヨハネ教会に遣わされます。福岡聖パウロ教会と皆様のお働きの上に、主の豊かな祝福をお祈りいたします。